

ヒヤリ・ハット事例の報告について

島尻特別支援学校

1. ヒヤリ・ハットについて

ここでいうヒヤリ・ハットは、子ども達と関わる教育活動全体において、「ヒヤリ」として「ハット」した出来事のことをいい、事故に至る可能性があったが、事故には至らなかった事象のことをいいます。

ハインリッヒの法則では、1件の重大な外傷事故（死亡事故、長期後遺症が残る事故、長期入院治療を要する事故など）に対して、29件の比較的軽微な外傷を伴う事故が発生し、さらに300件の外傷を伴わない事故（ヒヤリ・ハット）が発生していると唱えています。（図1）。

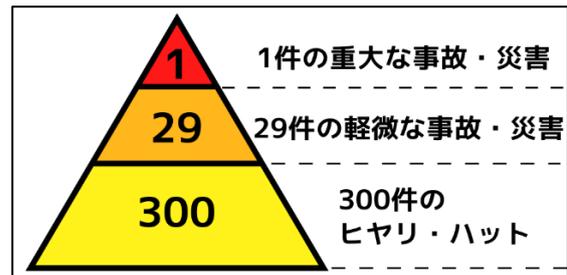


図1 ハインリッヒの法則

このヒヤリ・ハットを集めて事前に事故防止対策をしていれば、学校における重大な事故を未然に防ぐことができます。

ヒヤリ・ハットは、事故にまで至らなかった小さな問題状況に対して、予防対策をとることによって事故を未然に防ぐためにあるもので、ミスをした人を責める意味でも始末書を出させる目的でもありません。同じようなヒヤリ・ハットを繰り返さないようにするためにも、職員で問題を共有化していくことも大切です。

安全な教育活動を実践していくためにも、ヒヤリ・ハットを積極的に報告して下さい。

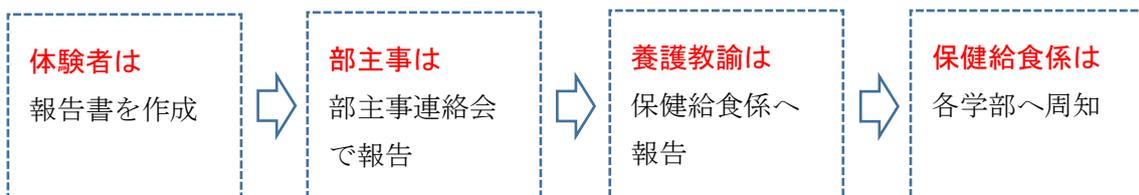
2. 報告の方法について

- (1) ヒヤリ・ハット体験者が、報告書を作成し各学部主事に提出する。
- (2) 各学部主事は、状況を確認し、今後の対応を検討し、部主事連絡会で報告する。
- (3) 養護教諭は、部主事連絡会で話し合われた内容を各学部の保健給食係に伝える。
- (4) 保健給食係は各学部でヒヤリ・ハットを周知する。
- (5) 報告書は事務室で保管する。

私の体験をみんなのために！



3. 実施方法について（フローチャート）



*ヒヤリ・ハット報告書は事務室で保管する。